

第3学年算数科「分数を正しく使える分数マスターになろう」

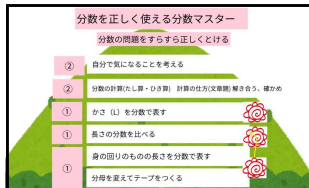
学習指導者 好井 佑馬

単元を通して、全体課題の解決後に、解決したことを基に自分で数やものを変えて問題を発見して、解決する時間を設定しました。「1mを4以外の数で分けても表せるかな」「長さじゃなくてかさも分数で表せるかな」などと自分で問題を発見して解決することの面白さを感じられるようにし、明らかにした問題場面から数やものを変えて問題を発見する方法を習得することを目指しました。

分数の足し算の仕方を考えよう

【見通し】

1時間目に、「分数を正しく使える分数マスターになる」という単元の目標を設定しました。2時間目には、それに向けて、分数について学びたいことを考え、学習計画を立てました。本時では、それを基に前時の学びを振り返り、本時の課題を確認しました。また、「レベル1」、「みんなで」、「問題発見タイム（レベル2）」といった本時の学習活動にかかる時間を話し合っ



成果と課題

○自分に合った解決方法を選択したり、話し合ったりできる環境設定によって、自分の考えを伝え合いながら主体的に学ぶ子供たちの姿が見られた。

▲子供たちが進める時間も大切だが、教師が子供の考えをまとめる時間やポイントとなる考えが明確になる板書など、教師の手立てによって、学習内容の理解を保障したい。

【行動】

レベル1の「 $2/5 + 1/5 = 3/10$ は正しいか」という問題を、分数の目盛りが入った1Lの容器に水を入れたり、1Lますの図や数直線をかいたりしながら、友達と話し合っ



て考えていきました。みんなで話し合う際には、子供が司会を行い、3/10Lでは1Lを10個に分けた三分になり、適切でないことを確かめていきました。その際、1/5が幾つあるかを考えるとよいことに気づき、足し算の理解を深めました。次の問題発見タイムでは、「もし他の数だったら」と考えて、分数の足し算の問題をつくり、解決していきました。その過程で、「分母より分子が大きくなった場合はどうしたらいいかな」などと考え、友達と解決を目指しました。自分の考えた問題を友達と解き合うことで、分母の数を変えずに、分子の数を計算することを理解していきました。



【振り返り】

協働、粘り強い問題解決、問題発見の三つの観点と本時の課題の達成度を3段階で自己評価し、自己評価の理由を記入しました。「1/5が何個あるかを数えたらいいと分かった」などと解決に有効であった考え方を振り返ったり、「友達と説明し合えた」などと友達との関わりや取り組み方について振り返ったりしました。

